

研究活動の経過（800字以内）（打ち合わせ、報告、招待講演、調査旅行などの月日、テーマ、報告者、目的地などを記入してください。）

2019年4月企画作業開始。4月5日麻生区役所と初回打ち合わせ。以降、学内関係各教員と打ち合わせ。5月28日岡上町内会長と場所の確認。6月3日学生への作品募集開始。各ゼミごとに現地調査開始。7月作品計画作成継続。岡上町内会・岡上西町会打ち合わせ。7月5日学生作品プラン締切。7月25日出品学生打ち合わせ。8月夏期休暇。9月作品計画実施案作成。麻生区役所と打ち合わせ。印刷物作成・広報活動開始。10月作品プラン詳細修正。下旬展示作業・公開へむけて設置作業。Webページの整備、更新作業。地域の子供のためのワークショップも行い、できた作品を展示するよう準備（台風によりワークショップは中止となる）。10月末作品現場での展示作業開始。10月28日～11月3日作品公開。展示期間中、教員による作品ツアー・スタンプラリーを開催し、地元の方々との交流も行う。展覧会終了後、作品撤去作業。11月29日総括のための打合せ、反省会。2020年1月記録及び報告作成。2月記録集編集作業。2月15日記録集完成。

研究成果の概要（1200字程度）（どのような方法で調査、研究を行ない、どのような新知見が得られたか。またそれを今後どのように活かすことができるか、など）

これまで4年間、麻生区黒川地域でアートプロジェクトを行い、地域の方々にも理解を得られ好評を博しました。その手法を生かし、今回は大学のある岡上地域で行いました。ワークショップ開催や一般の人との作品鑑賞ツアー、学生の作品数は、これまでとほぼ同規模でした。しかし、地域が違うことで、黒川地域では遠くまで視界が開ける、のどかな田園風景に対して今回の展示場所は、見て回るだけでも土地の高低差があり、1時間ほどかかる道のりでした。また、場所の確保や、看板設置なども、ゼロからのスタートで、初めての試みでした。また、大学のある地域ということで、大学祭と時期を同じにすることで、地域の組織の寺子屋おかがみとのサツマイモ収穫体験やスタンプラリーなど、地域の子供達との活動も初めての試みでした。

黒川地域での開催は、明治大学の収穫祭と同時にする事で、観客数は大変多くなっていましたが、今回は、そこまで多くないにもかかわらず、地域の方々が、地図を片手に、作品を見て回っている姿も多く見ることができ（パンフは、200部以上はなくなっていたので、その数は確実に見ていただけたでしょう）、無理のない程度に地域に関わっていたと考えられる。

作品解説付きアート散策ツアーでは、あまり宣伝が出来ていなかったにもかかわらず、関係者以外で15名の参加者があり、学生の作品解説を聞きながら、常時30名以上のツアーを行え、良い感想も得られました（映像資料もありますので、希望者はご覧いただけます）。

反省会の時の学生の言葉からも抜粋します。学祭と合わせたことは良かった（大半の学生）。会期の長さも作品の耐久性を考えると適当だった。運営をもう少し、学生に任せた方が良かった。周知が行き届いていない部分があった。看板をもう少し増やした方が良い。など

参加する学生は、毎年初めての学生が多く、継続して行っているが、常に学生には新たな刺激を与えられていて、良い教育機会となっている。一方、地域においては、今回が岡上地域では初めてだったため、大変少数ではあるが、連携がうまくいかなかったために快く思っていない人もおられましたが、開催を継続していくことで、アートの良さを徐々に理解していただければと考えています。

課題としては、岡上開催は初めてだったため準備不足もあり、岡上についての調査が足りなかったことは否定できない。2020年2月15日に出来た記録集でも指摘しています。地域住民及び来訪者の意識の変化も継続することで、今後調査していきたい。以上

成果の発表文献（標題、著者名、雑誌名、巻号頁、発行年等）

（発行年は厳密に2019年4月～2020年3月に刊行されたものだけに限らず若干前後のものも含めてください）

サトヤマアートサンポ 2019、和光大学表現学部芸術学科、24頁、2020年2月15日発行

※ 用紙が足りない場合は別紙を添付してください。

※ できるだけこのデータに入力いただき、Eメールでご提出ください。

※ 提出期限：2020年4月30日（木） 提出先=企画室企画係(岡本) kikaku@wako.ac.jp(企画係)